

令和4（2022）年度 長野県阿南高等学校 学自己評価表

学校教育目標	中・長期的目標
「永えに地域のシンボルたれ」をモットーに、平和的な社会の創造者としての自主・自立の精神に満ちた資質を培う。	(1) 自主性・協調性を培い、自ら学び自ら考える力を伸ばす。
	(2) 一人ひとりを大切にし合い、夢や希望を育み、個性を伸ばす。
	(3) 地域の信頼を担い、心豊かでたくましく生き抜く力をつける。
	今年度の重点目標
	① 自らが希望する進路を実現するための学力向上の取り組みと進路指導の充実
	② いじめ・暴力を許さない、一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の堅持
	③ 本校の特性に対応したコース制カリキュラムの充実
	④ 学校の活力の源泉となる生徒会活動とクラブ活動の更なる活性化
	⑤ 開かれた学校づくりと、家庭・地域との連携・協力
	⑥ 生徒育成方針に沿った生徒に身に付けさせたい資質・能力を高める教育活動の実践 1. 多様な考え・生き方を尊重する姿勢を養うとともに、他者と個性を認め合い適切なコミュニケーションをとることができる生徒 2. 地域の人や自然を愛しみ、課題に対して主体的・対話的かつ協働的に解決する姿勢をもち、現在及び未来において地域に貢献できる生徒 3. 安心安全な学校づくりに協力し、落ち着いた学習環境の実現に主体的に関われる生徒 4. 自らの在り方生き方について主体的に模索する中で目標を見出し、その実現に粘り強く取り組む生徒
今年度の総合評価 A B C D (%)	

評価の観点			分掌	成果と課題	改善・向上策など	A	B	C	D	
教育内容	進路指導・キャリア教育	重点目標①	生徒の実態を把握し、授業内容を工夫して主体的に学習意欲を喚起できたか。	教科	・生徒の実態を把握し、内容を工夫するよう努力した。主体的な学習意欲を喚起できた。 ・視覚資料や映像を使い興味を引ける工夫をしたり、高校生でも体験しうる事例を提示することで自分事として考えさせることができた。	・主体的・対話的な学びについて検討し、活動を増やす。 ・今後もより多くの生徒の実態を把握し、授業内容の工夫や改善に心掛けていきたい。	50	45	5	0
			生徒の主体性を尊重しつつ進路実現のためにきめ細かで計画的な進路指導が指導ができたか。	進路	・担任による面談や学年ごとの進路行事を積極的にを行い生徒・保護者の希望する進路実現ができるよう取り組んだ。生徒の主体性を引き出すことが課題である。	・小規模校ならではの、きめ細やかな丁寧な指導の強みを生かし、全職員で生徒の対応にあたる。次年度は、3年進学・就職希望者全員に担当職員を割り振り個別指導をさらに強化する。	39	61	0	0
			それぞれの学年・教科でキャリア教育の充実を図り、勤労観、職業観を促す指導ができたか。	教科 進路	・グローバルな視野の育成や、自己の適性・関心と向き合う機会をつくるよう努めた。学年を中心にキャリア教育を行い、様々なガイダンスを通じて「働く」意識の向上に努めた。(進路) ・コース選択における実習や福祉実習を通し、自身のライフプランを考えさせ、自己の適性や関心と向き合う機会をつくることができた。	・体験や実習を座学の内容につなげていく。また、より現実的な例示のあるガイダンスや体験などを通じて「働く」ことに対する意識の向上を図りたい。(進路) ・社会課題の解決という観点を入れることで、どの科目での年間を通して扱うことができるかと考える。	43	52	5	0
			生徒育成方針5)「在り方生き方を主体的に模索し粘り強く取り組む力」がつくような取り組みを行えたか。	進路	・進路活動の時間を確保し、計画と対策を立てるよう指導を行ってきた一方で、生徒自身に計画性を持たせることの困難さがある。	・生徒自身が進路を「自分ごと」として早い段階からとらえ、十分な準備ができるよう担任を中心に面談と体験的ガイダンスを3年間通じて計画的に進めていく。	24	67	10	0
	教育課程・コース制	重点目標③	3年間を見通した学習計画を立て、各コースの特色を生かした授業を行うことができたか。	教科 (コース会)	・卒業後の進路や資格取得を見据え、継続的な指導、必要な模試や補習を行うよう努力した。 ・地域探究の学習をより充実させ、3年次までの学習を見据えて計画、指導し新たな学びの形をととのえることができた。 ・感染症対策を行い、外部での活動を概ね実施することができた。 ・特色を生かした活動を通して進路につなげることができた。	・南宮塾との連携を強め、多くの生徒に学習する意義を考えさせたい。 ・生徒が体験活動や探究活動に積極的に取り組めるよう支援する。今後も継続して、コース選択時に進路を意識させる機会をもたせ、生徒の希望とコース選択のミスマッチ防止や自主的な学習への行動変容を促す。	45	45	10	0
			図書館やICTを活用して、多様な教育活動や探究的学びを実践することができたか。	教科 図書館情報	・ICTは必要に応じて活用できている。図書館の利用は十分とは言えない。 ・オンライン授業であっても通常と変わらない学習効果を目指し、様々なツールを組み合わせでの活用を研究した。	・教科の特性上、ICTを活用せずに従来の指導が有効な場面もあるため、状況に合わせた活用を今後も行いたい。 ・探究的な授業では、ネットに偏らず、図書館を利用するようにしたい。	52	43	5	0
			生徒育成方針2)「課題に対して主体的・対話的・協働的に解決する力」がつくような取り組みを行えたか。	教科	・テーマを設定し、グループワークやレポート課題、発表などの活動を通して、課題解決に向けて努力する機会を設けた。 ・授業内で時間を確保することで、生徒同士で協力して取り組む姿が見られている。	・課題に上手く取り組めない生徒の支援方法を改善する。 ・一人で黙々と取り組む時間、仲間と共に考えたり教え合ったりする時間のメリハリをつけていきたい。 ・まずは、基本的な知識や技能があつての主体性や対話・協働であると思うので、基本をきちんと指導する。	38	48	14	0
			生徒育成方針5)「在り方生き方を主体的に模索し粘り強く取り組む力」がつくような取り組みを行えたか。	教科 (学習企画)	・コース再編に伴い、現2年生から科目再編が行われた。各教科で探究的な内容が増えており、主体的な学びが増えていると考える。	・全教科が取り組み、生徒の意識を変えていくことが大切だと考える。	33	52	14	0
	生活指導	重点目標②	生徒の身近な問題の実態を把握し、有効な指導と啓発を行うことができたか。	生活指導 保健生徒相談	・学年の会議や生活指導係会などで生徒に関する情報をその都度共有し、担任を中心に指導・啓発を行った。	・引き続き、生徒との信頼関係を築くことを第一に考え、生徒ひとりひとりに寄り添えるよう努力していきたい。	35	60	5	0
			生徒の心身の健康の実態を把握し、保護者や外部機関と連携しつつ解決のための適切な支援や配慮ができたか。	保健生徒相談	・職員間の情報共有と連携は密になるよう努めた。担任から保護者への連絡も迅速にできている。SCやSSWへの相談も有効であったが、さらに支援は必要。	・今後も外部機関と連携をし、適切な支援策を探りたい。	29	71	0	0
生徒育成方針1)「多様性を尊重し他者と個性を認め合うコミュニケーション力」がつくような取り組みを行えたか。			生活指導	・憲法学習や平和人権学習を通して、他人を思いやり尊重する姿勢を育んだ。	・問題行動に対する指導の場面で、本人の発達段階や特性により、事態に対しての考えを深めることが難しい。引き続き、多くの教員で協力し、様々な視点から生徒に向き合っていく。	19	76	5	0	

生徒指導			生徒育成方針4) 「安心安全な学校づくりに協力できる力」がつくような取り組みを行えたか。	生活指導	・授業中の校内巡視を行うことで授業規律の確立に努めた。また、一人で悩みを抱えてしまうことの無いよう、定期的に学校生活に関するアンケートを行った。		33	67	0	0
	生徒会活動	重点目標④	生徒の能力や個性を伸ばしながら、社会人として必要な資質の向上をはかることができたか。	生徒会顧問会	・一人ひとりの得意分野を生かした業務を割振ることができた。・生徒の実態に応じて、技術的なことから粘り強く取り組む姿勢を意識して指導することができた。	・クラスごとに会員の生徒会活動への参加に差がある。役員生徒だけではなく、会員の生徒にも連絡の伝え方など基本的な部分から指導していく。	35	60	5	0
			部活動を活性化し、充実した活動につなげるために環境を整備することができたか。	顧問会	・部員が少ない部活が多く、予算も限られる中生徒の活動に合わせおおむねて環境を整備することができた。	・助成金や生徒会予算を有効に使うこと。既存の環境を組み合わせることや他のクラブ活動と連携することで補っていく。	21	63	16	0
			生徒育成方針2) 「課題に対して主体的・対話的・協働的に解決する力」がつくような取り組みを行えたか。	生徒会顧問会	・生徒自身らで話し合い、文化祭を始めとする生徒会行事の企画・運営を進めた。・行事の反省点や今後どう改善していくかを話し合うことができた。	・生徒会役員だけでなく会員の生徒が日ごろ感じている課題などを調査し、今後の生徒会活動につなげていきたい。	38	57	5	0
			生徒育成方針1) 「多様性を尊重し他者と個性を認め合うコミュニケーション力」がつくような取り組みを行えたか。	生徒会顧問会	・朝の挨拶当番活動を継続して行い、生徒同士で挨拶を交わすことができた。	・全校生徒が意見を出し、学校生活を築き上げられるような場や方法を検討していく。	24	71	5	0
学校運営	開かれた学校づくり	重点目標⑤	地域と連携し地域文化への理解を深めて、探究的な学びを充実させることができたか。	教科	・「地域探究Ⅰ」において地域の伝統芸能・言語文化・地域おこしについて扱い、それぞれについて理解を深めさせた。・地域探究の中で講師や関係機関と連携をとれた。・該当科目では目的に沿った授業を行うことができている。	・地域との連携や理解と探究的な学びをつなげる方法を考えたい。・共通科目でも、地域に関する学習を取り入れていく。	52	33	14	0
			授業公開やホームページ、会報、広報などを通じて、学校の活動内容を地域に積極的に発信することができたか。	庶務	・授業公開は、5月・10月(2回)・12月に実施することができた。・ホームページには本校の多様な活動・情報を見やすく公開することができた。・会報・広報なども発行し、生徒の様子を地域に発信することができた。	・授業公開は、環境的に可能になれば、地域の方々にも公開していきたい。・現在、地域の方と触れ合う活動を多数行っているので、そういった活動や、学校の活動内容をさらに地域に発信してきたい。	53	32	11	5
			教育懇談会、学校評議員会などを活用して、保護者や地域との結びつきを深めることができたか。	庶務渉外	・教育懇談会(10月)では、3年ぶりに郷土芸能鑑賞会を実施することができ、地域の芸能を理解することができ有意義であった。・学校評議員会では、授業公開・生徒の発表なども行い、本校の活動にご理解を得ている。	・PTAの活動は、環境整備事業ができたが、その他は今年度もあまり多くの事は出来なかった。・保護者の方々にも本校の活動をより知ってもらったり、PTAの行事ができるといい。	38	57	5	0
			生徒育成方針3) 「地域への愛着心を涵養し地域へ貢献できる力」がつくような取り組みを行えたか。	教科	・「地域探究Ⅰ」において、地域の伝統芸能、地域で活躍する方の話を伺い、地域への理解を深める内容を扱った。・愛着心を涵養するような取り組みをするよう努力した。	・授業で扱う地域に関するテーマを厳選し、生徒の理解を深めるアプローチ方法を考えたい。・地域へ貢献できる力につなげる取り組みは課題として残る。・具体的に地域にどう貢献できるかを明確にして、教科で何を考えられるか何ができるかを指導する。	38	57	5	0